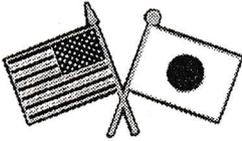


29 NOV 2002



第18号

日米エアフォース友好協会

だより

Japan America AF Goodwill Association

発行：日米エアフォース友好協会

〒105-0004 港区新橋5-25-1-3

編集：J A A G A 事務局

印刷：財団法人 防衛弘済会

# 歴代米第5空軍司令官が J A A G A 名誉会員に

## J A A G A の創設、発展、活動に寄与された 6名の方々に名誉会員証を贈呈

本年6月の総会において名誉会員制度が新設されたのを受けて、この度、6名の元第5空軍司令官が、初のJ A A G A 名誉会員となられた。6名の方々は、それぞれ第5空軍司令官として勤務され、J A A G A の設立並びにその後の活動及び発展に寄与された方々であり、石塚J A A G A 会長からJ A A G A 名誉会員としての入会を要請し、これを快諾されたもので、以下の方々である。

デービス元空軍大将	フロリダ州在住
ホーリー元空軍大将	バージニア州在住
マイヤーズ空軍大将	米統合参謀本部議長
エバハート空軍大将	NORAD兼米北方軍司令官
ホール元空軍中将	バージニア州在住
ヘスター空軍中将	米空軍特殊作戦軍司令官

名誉会員に対しては名誉会員証を贈呈する事とし、その文面を金属面に刻印した盾が作製された。この盾は、米空軍協会総会に合わせた9月12日から「つばさ会訪米団」のメンバーとして訪米した石川

J A A G A 副会長から、名誉会員制度制定の趣旨と名誉会員への推挙理由を述べ、今後引き続いての支援を要請する石塚J A A G A 会長の書簡と共に、ホーリー大将を除く全員に夫々直接手渡された。ホーリー大将に対しても、別途在米防衛駐在官の助力を得て既に届けられている。

なお、名誉会員制度新設と6名の名誉会員誕生については、石川副会長訪米に先立って、遠竹航空幕僚長とワスコ第5空軍司令官に理事を通じて説明し、また、ジャンパー米空軍参謀長には、石川副会長訪米に合わせて石塚会長から書簡を送ってお知らせした。これに対し、ジャンパー大将から9月19日付けで、米空軍と航空自衛隊との協力関係と、米空軍の元司令官達のために制定された名誉会員制度に感謝する旨の返書が届いている。

J A A G A としては、米国における我がJ A A G A の活動に対する認識と共に、航空自衛隊と米空軍との信頼の絆が一層強化されるよう、今後在米の名誉会員との連絡を密に保ち、意見の交換や必要な連携を目指して行くこととしている。

# 名誉会員証の贈呈

副会長 石川吉夫

J A A G A の設立とその後の活動を強力に支援してくれた元米第五空軍司令官に対する J A A G A 名誉会員証の贈呈については、たまたま「つばさ会米国派遣団」の一員として訪米の機会がありましたので、ホーリー元



Gen. Eberhurt and Lt. Gen. Ishikawa (Ret.)

へん名誉なことである。今後も J A A G A がますます発展されんことを祈っている。」との言葉があり、この企画が誠に当を得たものだったと意を強くしました。最近かつて在日米空軍に在籍した人たちが米国内で中枢の地位で活躍するのが目立ってい

大將を除くマイアーズ統合参謀本部議長、エバハート本土防衛軍司令官、ヘスター米空軍特殊作戦軍司令官、デービス元大將、ホール元中將の皆さんに石塚会長のレターを添えて直接手渡してきました。この際名誉会員証を受け取った全員の方々から「たい

ますが、名誉会員証の贈呈に際し、こういう人たちと常に連携を保っていくことは J A A G A の将来の活動にとって非常に重要なことだと強く感じた次第です。

## ジャンパー空軍参謀長からの返書

Dear General Ishizuka,

I am deeply appreciative of your recent letter and I greatly value the relationship between the JASDF and the United States Air Force. From my perspective—and that of many others—the JASDF was, and still is, vitally important in the war against terrorism. I simply cannot imagine a world where our two countries are not supportive of each other in our mutual goal for peace.

I am also grateful for the recognition you have established in honor of our former USAF commanders. This speaks directly to the friendship and cooperation we have established over the years.

I send my very best wishes to you and all members of the Japan—America Air force Goodwill Association and hope that we will be able to meet sometime in the future.

Sincerely

JOHN P. JUMPER

General, USAF  
Chief of Staff

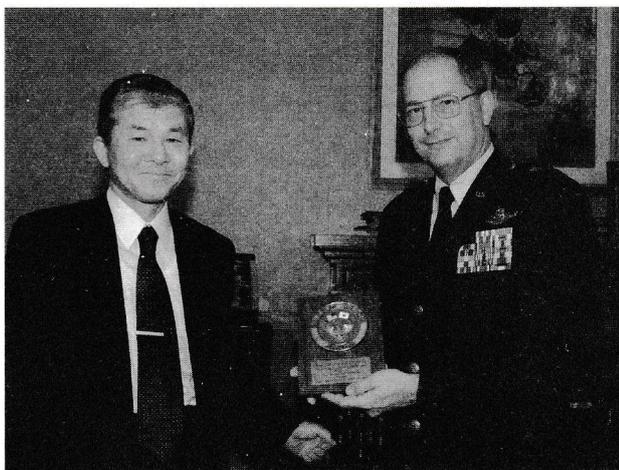
三沢支部から

## 米軍指揮官交代式典に参加して

三沢支部 小澤満昭

7月19日 三沢米空軍基地司令官が交代されました。指揮官交代式及び関連行事に、今回は三沢支部で対応しましたので、その模様を簡単にご報告します。

指揮権交代式典参加の招待状は米第5空軍司令官からということになりました。まず、朝9時からNCOクラブに隣接して新築された将校クラブ内の将軍の間でプレレセプションが行われ、離任される Utterback 准将ご夫妻との懇談の機会が設けられました。航空自衛隊からは三沢基地所在の北空司令官、3空団司令、北警団司令等将官の方々のほか航空支援集団 津曲司令官（前北空司令官）も参加され、市民側として下久保氏、佐々木氏等が見えておられました。参加の皆様は准将へのご挨拶が一段落したあたりで、上田3空団司令（当時）の助けをお借りしてJ A A G Aからの記念の盾を准将にお渡



Brg. Gen. Utterback and Col. Ozawa (Ret.)

しました。

指揮権交代式は10時からエプロンの最西端にある第949ハンガー内で行われました。ハンガー内に

は米軍の家族の方々のための観覧席も設けられており、かなりの人がゆったりと見物しておられました。北空音楽隊が両国歌を演奏し、式典の雰囲気盛り上げていました。ワスコー中將が准将及び奥様の功績を称えられたあと、准将の離任の辞は細部まではわかりませんでした、なかなか立派なものだったと思います。三沢で3年を過ごされた准将夫人は、みどり会（日本側はご婦人の会ですが、米軍では配偶者の会といわれますので、時に男性の構成員も存在することになります。そのうちに自衛隊もそうなるかもしれません。）や友達になったみなさんとの別れが辛い様子で、式典終了時は目が真っ赤になっていました。この時期、三沢はあいにく滑走路の工事中で航空機の離着陸ができず、准将ご夫妻は、式典終了後すぐに陸路青森に向かい、そこから飛行機で新任地ハワイの太平洋空軍司令部に行かれたとのことでした。

式典の後、引き続き Officer' s Club で歓迎レセプションが行われました。式典に参加した人以外でも、米陸軍、米海軍、軍属らしき方々等、希望する人たちが長い列を作り一人ひとり新司令官にご挨拶をしていました。この席で自分は新着任の Atkins 大佐に J A A G A のメンバーであることを自己紹介するとともに、Air Force Ball で日米優秀隊員の表彰を計画しているので、米側の適任者の選考をお願いする旨、お伝えすることができました。

2回目の指揮官交代式への参加でしたが、新旧両指揮官がその上級司令官の立会のもと部隊旗を授受するという形式は、見ているだけでも指揮権が確実に継承されていくのだということを強烈に印象づけ、好ましく感じました。

アターバック准将は、去る7月、3年にわたる三沢基地・第35戦闘航空団司令としての勤務を終え、ハワイの米太平洋空軍司令部に栄転されましたが、これに先立ち三沢基地における勤務の思いを寄稿して頂きましたので紹介します。

## 三沢基地に勤務して

アターバック准将

(前第35戦闘航空団司令)

日米安全保障同盟は東アジアと太平洋地域に於ける楔であり、また、第35戦闘航空団はこの同盟を脅かそうとするいかなる軍事的挑発にも対応する為に存在します。我々は任務を遂行する為に世界で最も認められ信頼された複数戦闘運用能力を持つF-16CJ戦闘機を運用しています。日々、我々は三沢基地において優秀でプロである航空自衛隊の方々と共に誇りを持って訓練に従事しております。ここは太平洋地域における最も優れた日米共同使用航空基地なのです。

そのような訓練では、我々には航空戦闘におけるすべての範囲にわたっての準備が完了していることを要求されますし、それは卓越したものでなくてはなりませんし、又、卓越していることが任務の最低基準ともなっているのです。どのような任務でも中途半端では成し遂げることはできませんし、技術面での規律を厳しく維持し続けることは最高なことです。我々の基準値は高く、その挑戦事項はかなり大きいものなので、私は太平洋地域の平和と安定という我々の任務を達成させる為に航空自衛隊と我ら第35戦闘航空団の隊員一人一人に依存しているわけです。

戦闘機を飛行させるということにおいては、安全性がいつでも最大重要事項です。これはいかなる任務を遂行する前にも我々が話し合う第一事項であり、最後にまた確認し合う事項でもあるわけです。高い水準の飛行を行う隊員はその複雑な任務と共に、日夜を問わず全ての天候の状況の下で活動している為、

多大に個人的そして組織的規律が要求されます。三沢基地の隊員全員は、航空自衛隊と米空軍共に、パートナーとして日々我々の航空機、管制システム、そして滑走路の適切な維持に従事しているのです。その隊員全員が厳しい規則に従いながらも現実に基づいた飛行訓練と安全性の間でバランスを取りながら訓練に勤しんでいるのです。更に、非常に大切なことは私たちの訓練空域における近隣住民の皆様と私たちを支援して下さっている方々への配慮です。その為には飛行時間を制限し、騒音のレベルを最小限に留め、各運用における安全の為の必要性を尊重しております。

三沢基地において、我々は任務の安全な遂行の為に支援して下さる周辺地域住民の皆様とのパートナーシップに依存しております。基地、我々隊員の家族、そして任務に要求される事項へのご理解に対する彼等の日々のご支援により、この日本北部に勤務するというを我々にとってとても光栄なものにして下さっているのです。そういった方々のご配慮を通して航空自衛隊と我々米空軍は、もしも平和と安定が損なわれたような時に戦うように実戦さながらの訓練をすることができるようです。

我々は日本国民の皆様と航空自衛隊との強い絆に誇りをもっております。我々の二国間での友情と50年以上の同盟は岩のごとくに固く、将来の挑戦に自信を持って対応していきます。

上智大学大学院生が米軍基地を訪問

## 思索の秋を更に深めた横田研修

——随所にうかがわれたワスコー中將の思い——



常務理事 岡本智博

金木犀のほのかな香りがふわりと漂う秋たけなわの9月24日、上智大学大学院教授川口和子氏並びに上智大学教授樋渡由美氏に引率された、17名の大学院生による横田基地研修が、J A A G Aから田中伸昌及び岡本智博両理事の立ち会いの下に行われた。本プロジェクトは昨年の同時期に予定されていたものであるが、9・11事案発生によって今日まで延期を余儀なくされていた企画である。

在日米軍司令官ワスコー中將に対する川口・樋渡両教授による表敬訪問では、机におかれていたパイロット・ヘルメットから極めて自然にワスコー中將のパイロット人生の話になり、そこで生まれた暖かい雰囲気がそのままブリーフィング・ルームに持ち込まれた状況で在日米軍の紹介が始まった。ブリーフィングはこれまで以上に内容が充実し、簡潔にして明快、重ねに重ねられた推敲の跡が伺われ、ワスコー中將のこのプロジェクトにかける気持ちが十分に伝わるものとなった。

これに続く学生と司令官による質疑応答は、一転

して極めて厳しい様相となった。「ソ連崩壊後、現在では何が脅威になっているのか。」「イラク攻撃はどの様な名分で行われるのか。」「悪の枢軸として名指しされたイラク、イラン、北朝鮮に対しては、順番に先制攻撃が為されていくのか。」「大量破壊兵器の脅威であれば、広島で使用された原爆は大量破壊兵器ではなかったのか。」等々、静かな口調ではあるが実に重い内容の質問が繰り返され、ワスコー中將も「いい質問だ。」と繰り返しつつ、質問のひとつひとつに対して、司令官としての、あるいは米国民の一人としての見解を、丁寧かつ誠実に応答していた。学生たちは司令官の回答をそのまま了解したというわけではなかったが、命を国家に捧げる軍人としてのワスコー中將の人柄溢れる真摯な対応に、心を揺さぶられたようであった。

和やかなうち解けた昼食会の後約1時間30分の予定で、横田基地内の施設及びC-9・ナイチンゲール機の見学が行われた。学生たちは空飛ぶ救急・救命システムであるナイチンゲールが総計20機存在

し、そのうち4機がアジア・太平洋地区の任務に就いていることを教えられ、その規模と任務の雄大さに米国のワールドワイド・コミットメントの実態を垣間見たようであった。

一般の研修を通して学生たちは、国家防衛の有り様、日米安保体制の実態といった、これまでは全く考えていなかった軍事分野における我が国の努力と実態を知るとともに、軍事的視野からもう一度物事を考えてみる機会を得たことを、心から喜んでいるようであった。



## 所 感 文

上智大学大学院外国語研究科

国際関係論専攻博士後期課程3学年

草 野 大 希

アメリカというアクターは、日本の安全保障のみならず、国際関係論および国際政治学を専攻する者にとって極めて重要な存在である。私自身は、「アメリカの軍事介入と国際法との相互連関」を主要な考察対象に据えて研究を行っているが、アメリカの安保政策の根幹をなす海外展開基地の一つである在日米軍横田基地への訪問は、様々な意味で私の研究活動に貴重な知的刺激を与えてくれた。小論では、私が訪問から得た成果をご報告し、今回の訪問の実現に尽力して下さった主催者並びに関係者の皆様への謝辞に代えさせて頂きたいと思います。

今回の訪問での一番の成果は、大学院の研究では実現が難しい、現実のアクターに直に触れるという機会を得たことである。我々の研究活動は、基本的には英文で書かれた学術書や論文、あるいは史実資料などとの対話を通して遂行されるのが常である。特に、理論的研究の志向性が強い場合には、一般的・抽象的なモデルの中で国家の行動や決定を分析しようと試みる。このような研究は、とかく「現実離れしている」との的外れな批判に晒されることがあるが、今回設定されたブリーフィングにおける質疑応答や昼食会におけるワスコー司令官との会話を通して思ったことは、現実のアクターも一定の行動論理に従って行動していると思える部分が多々あるということであった。

その中でも特に印象に残ったのは、同時多発テロ以降の「抑止」の困難性を昼食会の席で私が質問した際に、ワスコー司令官がお話下さった実体験であった。それは、ワスコー司令官が若い頃、ソ連空軍機と欧州上空で対峙（スクランブル飛行）したというご自身の体験であった。両者は互いに攻撃しあうことも、互いの領域を侵犯することもなく、威嚇のみの飛行を行って基地に帰っていったという。この

逸話はまさに「相互抑止」の論理から生じる、一種の役割行動が冷戦期の米ソ両軍のパイロットの現実の行動の中で実現されていたという事実であり、大変興味深かった。

第二の成果は、日本の安全保障に関する問題を再認識させられたことである。このテーマは私の直接的な研究対象ではないのだが、横田基地の機能の説明や、広大な基地内の見学を通して、この基地の存在が我々の普段の社会・経済・文化生活を支える基盤となっていることを改めて認識した。尤も、国際政治学の学徒である以上、安全保障が国家や社会の基本秩序を提供していることに関する理解度は高い方であると自負しているが、こうした認識は基地内の飛行場に降り立つというような実体験を通じて感覚的な側面からも強化されたと思う。同時に、日本がこれだけ立派な米軍基地の存在を受容していること、あるいは冷戦終焉という環境の変動を受けてもその基本的機能が維持され続けるという事実は、日本の安全保障に対する私の学問的関心を高めてくれた。

極めて短いコメントではあるが、以上のように、大学院の研究室ではおよそ得られないような現実の国際政治の一側面を実感する機会を得た、というのが今回の訪問から私が得た成果である。ブリーフィングの際にはイラク問題を巡って私以外の院生からの厳しい質問があり、とても緊迫したやり取りが交わされることもあった。私自身、ワスコー司令官のご返答には納得しかねる部分もあったのだが、皆様の真摯な対応には大変深い感銘を受けた。いずれにせよ、我々のような大学院生に国際政治の動態を実体験できる貴重な場を提供して頂いた関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

上智大学外国語研究科

国際関係論博士課程前期第1学年

柿原 真実

先日、我々は横田にある米軍基地を見学する機会に恵まれた。横田基地はJR福生駅からくるまで15分ほどの場所にあるが、その福生に対して、村上龍の『限りなく透明に近いブルー』に出てくるような、外国風の「ハウス」とすさんだ雰囲気を持ち合わせた、どちらかというとき暗いイメージの街を想像していた。しかし、現実の福生に到着して驚いたことは、自分のアパートから以外にも電車で近いこと（前述のイメージから、福生はいたく遠方だと信じて疑わなかった）、そして、想像とは違った普通の町並みが眼前に広がっていることであった。我々は用意して頂いていたバスに乗り込んで、横田基地に向けて出発したわけであるが、基地に入ると、右側通行の道路や平屋根の建物など、外界とはまったく違った外国の景色が現れ、少し違和感を覚えた。

会議室のような部屋に通されると、その壁には、時差のある三つ場所の時間を示すデジタル時計が掛けられていたが、そのうちの一つがやや遅れており、意外な気さくさを感じながら、司令官が来られるのを待った。その後、米軍の活動を紹介するスライドを見、米軍幹部の方々とディスカッションを持ったのだが、その日は折りしも、ブッシュ大統領がイラクへの先制攻撃も厭わないといった主旨の発言を

おこなった直後であり、議論は否応なしにもエスカレートしていった。私自身、広島出身ということもあり、米国がイラクを攻撃した場合、イラク国民はフセインから「解放」され、米国に従順になるといった仮説には懐疑的であった。その攻撃は、反米感情を巻き起こし、新たなテロの温床を生み出すのではないのか、と。司令官曰く、「その辺りのことも考慮に入れた上で、事態にあっているが、忘れてはならないのは、イラクが世界にとって脅威であること」らしいが、その内容は一辺倒であり、あらかじめ準備された返答といった感触は否めなかった。議論は、しかしながら、軍法会議から北朝鮮拉致問題にまで及び、納得できないものを感じながら、非常に興味深いものとなった。

続いてのランチは、後に聞いたところ、他のテーブルでは軍の広報活動などについて訪ねているらしいが、我々のテーブルでは、むしろ日常生活についての質問が続いていた。両肩についている階級を示す星のワッペンを取り外し可能なこと、夫婦はできるだけ近隣の基地に従事できることなど、それぞれは些細なことだが、すべてのことにアメリカ的な合理主義が採用されている点にに興味を惹かれた。その後は、病人搬送に使用される飛行機「ナインチンゲール」の内部を見学し、座席が後ろ向きに付けられていることに驚いた後に、帰路に付いたのだが、訪問したのが平日だったせいであろうか、その広大な土地に見える人の数はまばらで数えるほどであった。石原東京都知事は、横田基地の返還・軍民共用化を求めているが、確かに、あそこまで広漠たる土地が必要なのか疑問は湧いた。

しかしながら、米軍基地のない街で育った私にとって、今回の訪問は全般として、米軍に対する偏見を是正するためにも有意義なものとなった。米軍のイメージについて尋ねられた私は正直なところ、返答に詰まっていた。強姦から騒音問題まで、いいイメージを持っていなかったためである。だが、今はまかりなりとも、米軍に親近感を感じることができたと思う。このような機会を与えてくださったことに感謝したい。

上智大学外国語研究科

国際関係論博士課程前期第1学年

柳 澤 潤

アメリカ合衆国というアクターが、日本の外交政策のみならず内政全般に大きな影響をもつ巨大な存在であることは衆人の認めることでしょう。今回アメリカのパワーの源の中でも、最大のひとつである米軍を見学する機会を与えていただき、国際関係論を研究する端くれとして見聞を広げることができ大いに感謝しています。

私たちがブリーフィングを受けた部屋の名前は、ダグラス・マッカーサー元帥会議室（General Douglas MacArthur Conference Room）で、マッカーサー元帥の胸像と肖像画が飾られていました。このことから、在日米軍は占領軍という伝統を引継いでいるのだ、とするのは敗戦国国民の僻目でしょうか。しかし彼らにとって太平洋戦争は正義の戦争で、それを勝利に導いた指揮官を記念することが、

きわめて当然であることも容易に理解できました。

ブリーフィングは在日米軍の任務、その根拠、在日米軍の現勢、現在の日本周辺の状況等について説明がありました。米軍軍人の服務事故があるたびに問題になっている沖縄駐留についても説明があり、またワスコー司令官自ら下士官以下のモラルの教育について特別なプログラムがあることを説明されました。その他「えひめ丸事件」を意識してか、米軍の訓練について民間人の安全を第一に考えて行っていること、いわゆる日本の「思いやり予算」についても米国が高く評価していることなどの説明があり、日本に対して十分配慮の払われたブリーフィングであると感じました。

質疑応答ではワスコー司令官自ら回答されました。在日米軍司令官という高い地位にあるためか、基本的内容は米国政府の公式見解を出るものではなかったと感じました。しかし将来発生のおそれのあるイラクとの戦争について「できれば戦争はしたくない。しかしアメリカは確実な情報をつかんでおり、世界平和維持のためには戦いもやむを得ない。在日米軍はそのための準備と任務を実行する。」と発言され、ベトナム戦争の最前線を経験されただけに重い言葉と私は感じました。

また司令官は、北朝鮮の日本人拉致について日本政府、警察等を高く評価し、もしその優秀な能力がなければもっと多人数が拉致されていただろう、と発言しました。私は、一説には百人近く拉致されているという話もあるし、またアメリカ政府であればもっと早く対処し、要すればコマンド部隊でも送り込んで救出していただろうと思いました。

基地内見学では、軍人およびその家族に対する充実した福利厚生施設、教育施設に目をみはり、1990年代以降の軍備縮小の中で米国が依然として軍事力をパワーとして重視しているのだと感じました。

非常に多忙な中、私たちのために時間をとっていただいたワスコー司令官以下横田基地の方々、また本業をお待ちでありながら見学実現のため細かな交渉をしていただいたJ A A G Aの皆様に重ねて感謝いたします。

#### 要望事項

- 1 ブリーフィング時に資料を学生にも渡していただきたい。在日米軍等について予習してこない学生に非はあるでしょうが、一般的日本人は軍事関係について予備知識がほとんどありません。パワー・ポイントだけで流れるように説明されると、質問しようにも振り返って内容を確認するすべがありません。
- 2 飛行機の説明は新しい機種で行っていただきたい。C-9を見たことはありませんでしたが、しかし原型のDC-9は30年以上前に初飛行した機体です。バスで基地内を巡回したときフライトラインにC-17が見えました。あれを見せていただけたら、と思いました。また学生の間では、戦闘機を見たい、という意見が多数ありました。司令官のお力で、三沢のF-16か、嘉手納のF-15、あるいは海軍/海兵隊のFA-18、F-14、AV-8を呼んでいただけないか、と思いました。

# 日米親善 *SPORTEX'02 Golf Tournament* 2年ぶりの開催、表彰式で拍手と歓声

J A A G A主催の日米親善ゴルフ大会「SPORTEX '02」（第5回目）は、10月18日（金）に米空軍多摩ヒル・ゴルフコースで開催された。

恒例の行事として毎年実施してきたが、昨年は米国で発生した衝撃的な同時多発テロの影響でやむなく中止され、今年は2年ぶりの開催となった。米空軍からは第5空軍司令官兼ねて在日米軍司令官、トーマス・ワスコー中将以下32名が横田基地から参加、日本側から石塚勲 J A A G A 会長以下正会員、賛助会員合わせて56名が参加した。

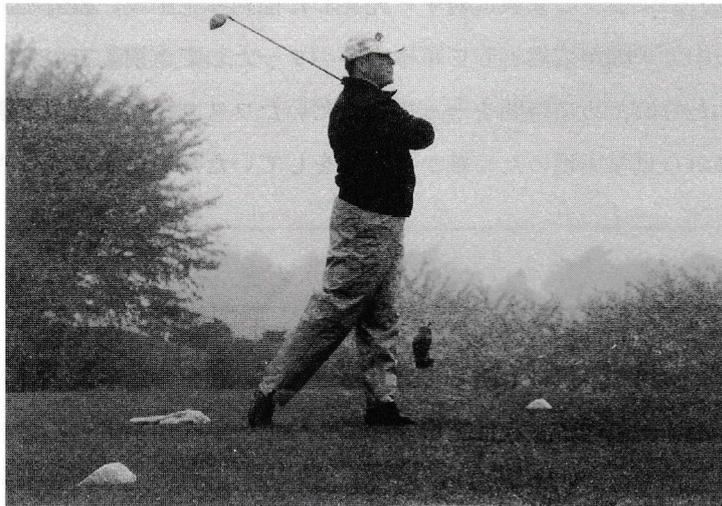
当日は、絶好のゴルフ日和が予報されていた前日までの天気予報を大幅に裏切り、早朝から降り出した秋雨が大会関係者を悩ます生憎の天気となった。しかし、そんな幹事の心配をよそに、早朝・悪天という状況下にも拘わらず日米の参加者が続々と到着、用意され

た朝食をとり、賑やかな雰囲気の中で着々とプレー準備が進められる様は、将に J A A G A の活況を目のあたりにする思いであった。同時に「SPORT EX」の役割の大きさを実感した一時でもあった。定刻の0700、各ホールに散った各チームは一斉にプレー開始、ショットガン方式で「SPORTEX'02」の幕は切って落とされた。雨のため事前の練習も充分ならず、いきなりの本番スタートに加え、時折強く降る雨に悩まされながらの悪戦苦闘の

出だしではあったが、ホールを進むうちに、本来の調子を取り戻し、後半には雨もあがり和気あいあいの友好ムードの中に持ち前の技量を競い、日米友好の実を挙げていた。

競技終了後、全員が食堂でテーブルを囲み、準備されたステーキ昼食をとりながら表彰式が実施された。和やかな懇談が進む中、後藤理事の名司会で成績が発表され石塚 J A A G A 会長から入賞者に賞品が授与された。賞品は順位賞の他ドライビングコンテスト、ニアピン、更にはベストドレッサー等のユニークな賞も準備され、

受賞の都度会場は大きな歓声と拍手に包まれた。続いて、ワスコー司令官がスピーチを行い J A A G A の活動に期待を寄せるとともに自らの4位入賞の喜びを語った。石塚会長もこれに応じて流暢な英語でスピーチを行い万来の喝采を浴びた。



1st. Tee Shot, Lt. Gen. Waskow

競技はトライアングル方式（パー及びパー以下の数の合計とボギーの数からハンデイーを決定）で順位が決定されたが、ホームグラウンドの利か、年齢の若さか、上位は米軍関係者が占める結果となった。本年も航空自衛隊からの参加がなかったが、やはり寂しさを禁じえなかった。J A A G A の活動趣旨からも、現役航空自衛官の参加の道が開けることを期待したいものである。

なお、受賞者は次の通りである。

## JAAGA SPORTEX'02

## 表彰者名簿

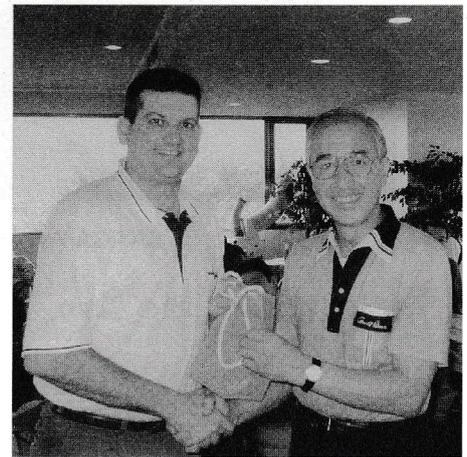


## 個人順位賞

優勝	CMSgt. Terry Boeder	第 8 位	LTC. Michael Harrington	第 50 位	山本 寿之
準優勝	LTC. Craig Castillo	第 9 位	尾崎 利夫	第 60 位	山田 稔
第 3 位	MSgt. Miles Jones	第 10 位	石川 武	第 70 位	早瀬 洋一
第 4 位	Lt.Gen. Thomas Waskow	第 18 位	田中 伸昌	第 80 位	CIV Tom Hasebe
第 5 位	Maj. Dave Schwarze	第 20 位	Col. Tim Davis	B B 賞	Cap. John Fullmer
第 6 位	吉田 武治	第 30 位	田所 健	B M 賞	Maj. Doc Grahn
第 7 位	山口 生夫	第 40 位	横沢 彰夫		

## 特別賞

B/G	LTC Craig Castillo	ヤングスト	1 stLt. Erik Kom
N/P #3	柳谷 均	シルバー	石川 武
N/P #7	中司 崇	ナイス ドレッサー	逸見 和子
N/P #11	MSgt. Miles Jones		LTC. Mark Simon
N/P #15	Brg.Gen. Rusty Findley		沼田 由巳
D/K #9	Col.Tim Davis	インプレッシブ・ プレーヤー	LCDR Wally kessler
D/K #17	Col.Tim Davis		Maj.Gen. Bob Shea
			青村 明



Closing Ceremony

## 講演等の要望を募ります

## 「安全保障に関する日米関係」等

防衛協力のための指針や物品役務相互提供などに関する論議がしばしば行われる昨今、事務局では日米関係の現状や展望に関するより良い理解の

ため、主として基地周辺の皆様を対象とする講演、懇談会等を企画できるよう準備しています。ご要望あれば御一報下さい。 JAAGA事務局

# JAAGA AWARD '02

— USAF 5名、JASDF 4名の隊員を表彰 —

JAAGAは、日米友好親善に寄与した日米双方の隊員に対する表彰を毎年行っており、平成14年度は米側5名、日本側4名の計9名を表彰した。表彰式は、今や恒例となった米空軍の創立記念式典(Air Force Ball)の席上において日米双方の隊員に対し同時に行った。9月14日に行われた横田基

地のエアフォースボールでは石塚会長から、同日行われた三沢基地のエアフォースボールでは増元副会長から、また9月21日に行われた嘉手納基地のエアフォースボールでは横澤副会長から、それぞれ表彰状並びに記念の盾を授与した。



JAAGA Award '02, presented by Lt. Gen. Yokozawa (Ret.)

今回の表彰隊員は、次のとおり。

## U S A F

Maj. Stuart A. Lum	(三 沢 : 14th Fighter Squadron, 35FW)
Maj. Charles D. Grahn	(横 田 : 605 Air Operations Sq, 605AOG)
Maj. Geoffrey B. Pihlaja	(横 田 : 605 Air Intelligence Sq. 605AOG)
MSgt. James K. Harville	(横 田 : 374 Operations Support Sq. 374AW)
MSgt. Kenneth Trawick	(嘉手納 : Kadena NCOA, 18SPTG 18W)

## J A S D F

准 空 尉 荻野 幸由	(府 中 : 防空指揮群本部)
准 空 尉 山田 栄	(那 覇 : 南西航空混成団司令部)
空 曹 長 石沢 金春	(三 沢 : 北部航空警戒管制団北部防空管制群通信隊)
3等空曹 小泉 芳彦	(入 間 : 第3補給処調達部)

# 「つばさ会訪米団」に参加して… 心暖まる歓迎に感謝！

常務理事 越智通隆

今年度の訪米団は前回に引き続き杉山蕃つばさ会副会長を団長に石川吉夫特別顧問、大谷廣利団長補佐、森 敏、鈴木敏且、西川正長、横幕 功の各氏と私の計8名で構成され、9月12日から28日までの期間、AFAの年次総会に参加し、同協会との交流及び航空宇宙技術展示会での資料収集を始め、米国防務省、空軍省及び空軍基地等を訪問、高官等との交流を通じ日米相互の親善を図ると共に米空軍等の現況及び趨勢を把握してまいりました。

今回は石川副会長の記事にもありますようにJAAGA創設等に御尽力賜った歴代第5空軍司令官への名誉会員就任への御了解と贈呈式も実施する事が出来JAAGAの会員としてその場に立会出来ました事大変光栄に思いました。

又近年特に日本にゆかりのある方々が米軍のトップのマイヤーズ統参議長を始め副議長のペイス海兵隊大将やエバハートNORAD司令官、ヘスター米空軍特殊作戦軍司令官等についてお

られ我々としては大変心強い思いがいたしました。我々をペンタゴン案内してくれたのはノース統参本部J-5副部長でしたが三沢の飛行群司令、嘉手納の団司令の勤務経験があり私も個人的にもよく承知しており久しぶりの再会を嬉しく思いました。

今回お会いした米軍の高官からは9.11テロに対する日本政府の迅速な対応とその後の自衛艦による洋上給油やC-130等の空輸支援にみられる後方支援等に対し感謝の言葉が伝えられました。ファーゴ

太平洋軍司令官を執務室にて表敬したおりに上記感謝の言葉の他今後の事についても話題となりました。

また大変印象的だった事は米軍の圧倒的強さであり、その源泉は宇宙にあるとの思いでした。今回団員の中にミサイルの専門家である鈴木敏且氏が参加していましたが事前に訪問先に質問をしておりロスアンゼルス空軍基地にあるSMC(宇宙ミサイルシステムセンター)に到着と同時に分厚い資料をも

とに5時間に及ぶブリーフィングを実施してくれたのには一同大変感激しました。

ジャンパー空軍参謀長が目標発見から攻撃開始まで10分間という大方針や次期主力戦闘機F-22をFA化およびFB化するということが可能にしているのもこの宇宙におけるGPS等の成果であると理解する事ができました。日本には宇宙の平和利用に関する国会決議があり今後ともその趣旨は十分尊重されるべ

きものと思いますが、同時にそろそろ時代の趨勢を十分検証する時期にきているのではないかと痛感しました。

今回つばさ会訪米団に参加して大変貴重な経験をする事ができましたが、これも偏に諸先輩方の永年にわたる日米交流の実績の結果であり訪問間随所に人と人とのふれあいの大切さを痛感してまいりました。

この場をお借りして本訪米間多大の御尽力賜った日米の方々に厚くお礼申し上げます。



Gen. Myers and Gen. Sugiyama (Ret.) and Lt. Gen. Ishikawa (Ret.)

## … 新入会員の紹介 …

### 1 新入会員

#### (1) 正会員

氏名 勤務先	〒	住所・電話番号（上段：自宅、下段：勤務先）	
佐竹 祐二	100-8411	さいたま市道祖土 2-6-7	048-887-6290
明星 電気	112-8511	文京区小石川 2-5-7	03-3814-5124
木元 晃	183-0014	府中市是政 1-33-33	042-369-5436
東京海上	100-8050	千代田区丸の内 1-2-1	03-3213-6022
江藤 正彦	805-0004	北九州市八幡東区日の出 3-9-2	093-671-0961
		同 上	
吉田 松徳	270-1342	印西市高花 4-3-11-501	0476-46-5509
リコー	104-8155	中央区銀座 6-14-6 (リコー三愛ビル)	03-5148-6441
寺田 治夫	358-0026	入間市小谷田 3-1-40	042-963-0188
日航 電	150-0043	渋谷区道玄坂 1-21-2	03-3780-2961
橋本 康夫	358-0001	入間市向陽第 1-1-24-21-402	042-964-8813
日本電気	101-0065	千代田区西神田 3-1-6 (日本弘道会ビル)	03-5210-4832
野沢 邦彦	066-0065	千歳市春日町 2-5-13	0123-24-0761
冬 総研	069-1592	夕張郡栗山町旭台 1-58	01237-2-7777
佐藤 裕紀夫	511-0904	桑名市野田 1-8-12	0594-31-7424
援護協会 名古屋支部	450-0002	名古屋市中村区名駅 4-23-13 名古屋大同生命ビル10F	052-541-0334
三澤 守	179-0072	練馬区光が丘 5-6-2-803	03-3977-1410
防生 協	162-0845	新宿区市谷本村町 4-1 市谷会館本館内	03-3269-7641
蜂谷 治幸	279-0014	浦安市明海 74-501	047-382-0026
スナップ・オン・ツールズ	108-0075	港区港南 3-5-12	03-5463-1281
高巢 英一	433-8117	浜松市高丘東 2-20-7-911	053-439-8014
静岡エアコミュニーター	420-0902	静岡市諏訪 8-10 静岡ヘリポート内	054-265-2759
津久井 建美	273-0021	船橋市海神 5-29-52-104	047-737-7043
防生 協	162-0845	新宿区市谷本村町 4-1 市谷会館本館内	03-3269-7641

#### (2) 法人賛助会員

法人名 代表者	〒	住 所	電話番号
三井物産エアロスペース 川居 信次	105-0011	港区芝公園 2-4-1 秀和芝パークビル A館12階	03-3437-8780
(株)シテイリンクス 村上 尚一	060-0006	札幌市中央区北 6 条西18丁目11-9	011-632-0770
スナップオンツールズ(株) キャロル・ジョン・クリーチ	108-0075	港区港南 3-5-12	03-5463-1281

#### (3) 名誉会員

氏 名	現 職 (最 終)	そ の 他
ジェームスB. デービス 大将 (退役)	Chief of Staff, Supreme Headquarters Allied Powers Europe	フロリダ州在住
リチャードE. ホーリー 大将 (退役)	Commander, Air Combat Command	ヴァージニア州 在住
リチャードB. マイヤーズ 大将	Chairman, Joint Chiefs of Staff	ワシントンDC 国防総省
ラルフE. エバハート大将	CINCONORAD/COMMUSNORTHCOMM	コロラド州 ピターソン基地
ジョンB. ホールJr. 中將 (退役)	Commander, US Forces, Japan and 5th Air Force	ヴァージニア州 在住
ポールV. ヘスター中將	Commander, AFSOC	フロリダ州 ハーバード基地

## 2 名簿修正等

## (1) 正会員住所等変更（網文字部分が変更箇所）

氏名	〒	住所	電話番号等	変更箇所
石川 武	205-0011	羽村市五の神 3-6-6	042-555-6003	自宅電話番号
石川 吉夫	135-8655	港区台場 2-3-1	03-5520-3270	勤務先住所
岩崎 克彦	100-0005	千代田区丸の内 2-5-1	03-3212-3111	勤務先電話番号
植村 卓	330-0002	さいたま市春野 3-8-8	048-687-8256	自宅住所
大串 康夫	100-8182	千代田区大手町 2-2-1 (新大手町ビル)	03-3244-5664	勤務先住所等
越智 通隆	105-0011	港区芝公園 2-4-1 秀和パークビルA館12階	03-3437-8972	勤務先住所
桑原 武彦	183-0011	府中市白糸台 6-4-5-103	042-369-1477	自宅電話番号
杉山 蕃	144-0041	大田区羽田空港 3-3-2	03-5756-3102	勤務先電話番号
鈴木 昭雄	105-6116	港区浜松町 2-4-1	03-3435-2051	勤務先住所等
鈴木 一嘉	141-8686	品川区北品川 5-9-11	03-5488-8001	勤務先住所等
平岡 裕治	144-0040	大田区羽田空港 3-5-10	03-5756-5574	勤務先住所等
美濃谷 一義	185-0014	国分寺市東恋ヶ窪 5-3-1-317	042-323-7122	自宅住所等
横江 勝利	187-0021	小平市上水南町 1-31-34	042-332-6538	自宅 F A X
	264-0021	千葉市若葉区若松町 531-564	043-424-6737	勤務先住所等
横澤 彰夫			043-422-2399	勤務先 F A X
	104-0032	中央区八丁堀 3-24-1-301	03-3552-5501	自宅住所等

## (2) 正会員勤務先削除

大橋 武郎、児玉 節正、竹田 五郎、千葉 徹也、野本 経雄、長谷川孝一、松本 勲、村山善康各氏

## (3) 法人賛助会員代表者等変更

法人名	変更内容	変更箇所
石川島播磨重工業 (株)	理事を取締役に	職名
(株) 島津製作所	若狭一夫氏から山田一郎氏に (航空機器営業部長)	代表者
日本電気 (株)	入野泰孝氏から高坂資博氏に (第三防衛営業部長)	代表者
	〒101-0065 千代田区西神田 3-1-6 (日本弘道会ビル) 電話：03-5210-4823 FAX：03-5210-4873	住所・電話番号
丸紅エアロスペース (株)	川口富士夫から山口生氏に (営業本部長)	代表者
	〒100-8088 千代田区大手町 1-4-2 電話：03-5220-7700 FAX：03-5220-7710	住所・電話番号
ロッキードマーチン・エイエスイン ターナショナルコーポレーション	ロッキードマーチン・グローバルコーポレーション 松本直也氏から加瀬正氏に (在日代表兼日本地区担当副社長)	社名 代表者
G.E航空機エンジン	三谷宏幸氏から上西健次氏に (社長兼ゼネラルマネジャー)	代表者

## (4) 新規役員

ア 企画担当 三澤 守

イ 広報担当 吉田 松徳 蜂谷 治幸

## JAAGAホームページ

URL : <http://www.bouei.com/groups/jaaga/>

本ホームページにアクセスするには防衛ドットコム协会会员になる必要があります。防衛ドットコムのホームページ (URL:<http://www.bouei.com/>) を開き、新規会員登録の手続きを実施して下さい。

# 会 員 募 集

J A A G Aは、創立6周年を迎え、更なる前進を目指して個人会員の会勢拡大に努めております。会員の皆様の勧誘、推薦、情報提供に関するご協力、ご支援を是非とも宜しくお願い致します。なお、個人会員につきましては、次のとおりです。推薦若しくは情報提供を頂いた方には直接会員担当の係から連絡させていただきます。

【入会資格】 正 会 員 : 航空自衛隊のOB  
個人賛助会員 : 航空自衛隊のOB以外の方で、正会員3名の推薦が必要です。

## 【連絡先】

「郵便」 〒105-0004 東京都港区新橋5-25-1-3  
日米エアフォース友好協会 会員担当行  
「電話」 03-3219-5638 細 稔 (株)島津製作所  
03-3489-1120 尾崎 利夫 (東京航空計器(株))  
03-3212-3111 村岡 亮道 (三菱重工(株))  
03-3431-4820 宇都宮 靖 (横浜ゴム(株))

## ワンポイントQ&A

### Q JAAGAとは?

**A** JAAGAは、航空自衛隊と米空軍との相互理解と友好親善の増進に資することを目的とし、現役の皆さんが仕事をやりやすい環境作りに寄与しようという航空自衛隊OB主体の組織です。

### Q 協会の運営は?

**A** JAAGAは、ボランティアに徹し見返りを求めないこと、及び努めて現役の皆さんに負担を掛けないことを方針として運営しております。多くの皆様の期待に応えるべく、さまざまなアイデアを取り入れ、活動の幅を広げ、種々の事業を展開してまいります。

### Q 私も参加できますか?

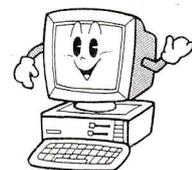
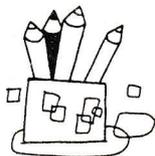
**A** JAAGAは、その活動をより活発にするため、個人会員の会勢拡充に努めております。航空自衛隊のOBの方は、どなたも正会員として入会できます。また航空自衛隊OB以外の方でも、個人賛助会員として入会の道があります。

## ☆ 原稿募集 ☆

皆様からのフリーな投稿や、JAAGAの活動に対するご意見やご要望を頂戴し

### 皆様と共に歩むJAAGA

として更なる発展を期していきたいと思ひます  
皆様の貴重なご意見や各種投稿をお待ちしています



### 投稿受付

木村 忠信 Tel 03-3464-3053 (GEエジソン生命)  
Fax 03-5459-2236